

小学校第6学年

国語

注意

- 1 先生の合図があるまで、中を開かないでください。
- 2 調査問題は、1ページから17ページまであります。問題用紙のあいている場所は、下書きや計算などに使用してもかまいません。
- 3 解答用紙は、両面に解答らんがあります。解答は、全て解答用紙に書きましょう。
- 4 解答は、HB以上のこさの黒えんぴつ（シャープペンシルも可、ボールペンは不可）を使い、こく、はつきりと書きましょう。また、消すときは消しゴムできれいに消しましょう。
- 5 解答時間は、45分間です。解答が早く終わったら、よく見直しましょう。
- 6 問題用紙の最後に、この調査問題について質問があります。解答時間終了後、先生の指示で回答しましょう。

調査問題は、次のページから始まります。

小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人にインタビューをすることになりました。バスの運転士に興味のある小森さんたちは、インタビューで質問することを話し合っています。次の【話し合いの様子】と【話し合いの記録】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

小森さん



質問することを整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にして働いているかを聞きたいな。きっと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん



ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切になっていると思うな。

町田さん



安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだね。

小森さん



確かに、大変そうだね。「仕事で大切にしていること」で話してくれたことをきっかけにして、「仕事で大変なこと」を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん



バスの運転士は、楽しそうだなと思っていたけど、大変なこともありそうだね。大変なことがあっても仕事を続けている理由も聞きたいな。

町田さん



きっと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん



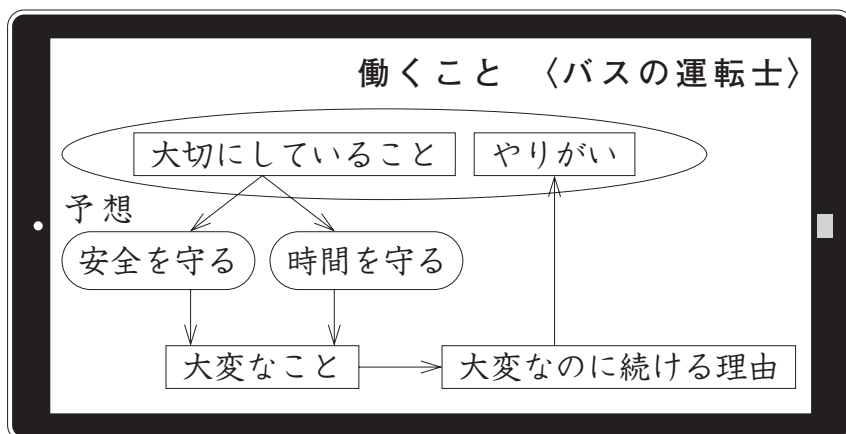
ぼくもそう思うな。大切になっていることとやりがいについては、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん



うん、そうしよう。ここまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめたよ。この進め方でいいかな。

【話し合いの記録】



一 【話し合いの様子】の小森さんは、インタビューをどのように進めようと考えて、——部の発言を
しましたか。最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。
- 2 複数の質問のちがいを明確にして聞くことで、相手が答えやすい内容を選ぶようにしている。
- 3 複数の質問を関連づけて聞くことで、相手が答えやすい内容を選ぶようにしている。
- 4 複数の質問を関連づけて聞くことで、聞きたいことを相手から引き出そうとしている。

二 【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの
中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 質問する内容を丸で囲み、質問しない内容に線を引いて区別している。
- 2 質問する内容を四角で囲み、線でつなぐことでインタビューの流れを整理している。
- 3 質問する内容を短い言葉で書き、線でつなぐことで質問を一つにしばっている。
- 4 質問する内容をできるだけくわしく書き、多くの質問ができるようにしている。

三 小森さんたちは、バスの運転士の岡さんにインタビューをすることにしました。次の「インタビューの様子の一部」をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【インタビューの様子の一部】

小森さん



私たちは、働くことについて考えるために、興味のある仕事について調べています。今日は、岡さんの仕事についてうかがいます。どうぞよろしくお願いします。

岡さん



どうぞよろしくお願いします。

小森さん



はじめに、バスの運転士として岡さんが大切にしていることを教えてください。

岡さん



バスはたくさんの人を乗せていますから、やはり、安全に目的地までお送りすることを大切にしています。

小森さん



安全に運転することは大事なことです。ア 安全に運転するために、例えばどのようなことを心がけているのですか。

岡さん



道が混んでいると時刻どおりに運行できないこともあります。あわててしまうと、大きな事故につながりかねないので、落ちついて運転するようにしています。それに、バスの安全を守っているのは運転士だけではないんですよ。

小森さん



えっ、そうなんですか。運転士のほかにどんな人がいるのですか。

岡さん



出発する前に、自分でもバスの点検をしますが、整備士も定期点検をしています。そのほかに、私たち運転士の健康状態を確認するなど、安全な運行を管理する人もいます。

小森さん



イ なるほど。たくさんの方が、乗客の安全を支えてくださっているんですね。私たちは時間を守ることも大切だと思っていましたが、私たちが思っていた以上に安全を第一に考えてくださっていることが分かりました。

清川さん



バスの安全な運行のためには、大変なこともあると思いますが、いかがですか。

〃 (インタビューが続く) 〃

(1) 【インタビュの様子の一部】の小森さんが――部アのように発言した目的として最も適切な

ものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 自分が知りたいことをより具体的に知るため。

2 質問する理由を相手に正しく伝えるため。

3 自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめるため。

4 相手が伝えたいことの内容を明確にするため。

(2) 【インタビュの様子の一部】の小森さんが――部イのように発言した理由として最も適切な

ものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 相手の答えは自分の予想どおりであることが分かったから。

2 自分が聞こうとしていた内容のほかに、新たに聞きたいことが見つかったから。

3 相手の答えと自分の考えを比べて、考えを深めることができたから。

4 自分が共感した内容を取り上げて、話題を広げようと考えたから。

【ちらし】

手ぬぐい



手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
そのよさとは、どのようなものでしょう。

よさ1 もよう

さまざまなもようがあり、すきなもようを選ぶことができます。おくり物としてもぴったりです。



季節を感じるもよう

手ぬぐいには、植物や風景をもとにしたもようがあります。季節に合わせて手ぬぐいを選ぶことができます。



しゅみやすきなものに合わせたもよう

スポーツや音楽などに関係するもようの手ぬぐいもあります。相手のアこのみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

よさ2 使い方

手などをふくだけではなく、身に着けたり、物を包んだりすることもできます。

身に着ける使い方

イあついに、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。また、外で作業をするときに頭にかぶると、あせをきゅうしゅうし、両手が空くので仕事がしやすくなります。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

このように、手ぬぐいには、いろいろなよさがあります。
みなさんもぜひ使ってみてください。

山田さんの学級では、伝統工芸品についてすいせんするちらしを書くことにしました。山田さんは、手ぬぐいのよさについてすいせんする文章を、次の【ちらし】に書いています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

一 山田さんは、文章の構成をくふうして【ちらし】を書いていきます。山田さんが文章の構成をどのようにくふうしているかを説明したものととして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 読んでほしい順序を明確にして、時間の流れに沿って書いている。

2 伝えたいことの中心を明確にして、内容のまとまりごとに分けて書いている。

3 文章の筋道が整うように、原因と結果を明らかにして書いている。

4 読み手の目的に応じて読めるように、使い方の手順に沿って書いている。

二 山田さんは、の中で、手ぬぐいのもようについて言葉と図で説明しています。その理由として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 言葉に関係のない図を示すことで、別のもようについての興味を高めるため。

2 二つの図を並べて示すことで、もようの移り変わりを明確にするため。

3 言葉と図を合わせて示すことで、具体的に内容を理解できるようにするため。

4 言葉と図を比べて示すことで、疑問点を明確にするため。

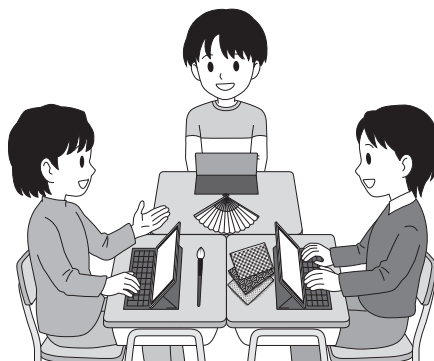
【調べたこと】

〈本を読んで分かったこと〉

- ブックカバー
 - ・何回か折るだけで、すぐに完成する。
 - ・本の大きさに合わせて包むことができる。
- ペットボトルカバー
 - ・ペットボトルを包んで持ち運ぶことができる。

〈使ってみて分かったこと〉

- ブックカバー
 - ・よごれがつくのを防ぐことができてよかった。
 - ・落としたときに、本がきずつかなかった。
- ペットボトルカバー
 - ・水てきが荷物につかなくてよかった。
 - ・温かい飲み物が冷めにくかった。



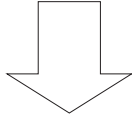
三 山田さんは、【ちらし】の書き表し方について友達に相談し、【ちらし】の——部をくわしく書いたほうがよいと考え、次の【調べたこと】を見直しました。あなたが山田さんなら、どのように書き直しますか。あとの条件に合わせて書きましよう。

〈条件〉

- 【ちらし】の 部を書き直し、くわしくすること。（一文でなくてもよい。）
- 【調べたこと】の〈本を読んで分かったこと〉と〈使ってみて分かったこと〉のそれぞれから言葉や文を取り上げて書くこと。
- 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

物を包む使い方

手ぬぐいは、いろいろな物を包むことができます。

[illegible]

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。

解答は、解答用紙に書きましょう。

※◆の印から横書きで書きましょう。とちゅうで行を変えないで、
続けて書きましょう。

四

山田さんは、【ちらし】を読み返し、習っている漢字がひらがなになっていた――部ア、イを漢字に書き直すことにしました。次の――部ア、イを漢字でいてねいに書きましよう。

相手の ア このみに合わせて、もようを選び、おくることができます。

イ あつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。

調査問題は、次のページに続きます。

木村さんの学級では、言葉の変化について学ぶために、みんなで【資料1】を読みました。そして、【資料1】を読んで一人一人が疑問や興味をもったことについて調べ、分かったことをもとに考えをまとめることにしました。【資料1】をよく読んであとの問いに答えましょう。

【資料1】

言葉は、年月とともに変化していくものです。かつて規範的※1であると考えられていた言葉の形や意味が、現代においては通用しなくなっていたり、使い方が変わっていたりする場合も少なくありません。

ですから、意味や使い方に揺れが生じている言葉について、「この使い方だけが正しい」と決めつけるのは短絡的※2ともいえるでしょう。①この本を読むとお気づきになるとありますが、文化庁国語課では、言葉の意味について「正しい」「誤り※3」といった判断をせず、代わりに、②「本来の意味」「本来とは違う使い方」といった言い方にとどめています。言葉の正誤※4を軽々しく決めることはできないと考えるからです。

とはいえ、どんな言葉を使ってもいい、というわけではありません。③コミュニケーションの食い違いを放置しておくわけにもいきません。

④「言葉は生きている」とも言われます。その広がりや深さにも、触れていただきたいと考えています。

(文化庁国語課『文化庁国語課の勘違いしやすい日本語』による。)

※1 「規範」……………判断したり行動したりするときの手本。

※2 「短絡」……………よく考えもせずに、ものごとを簡単に結びつけてしまうこと。

※3 「文化庁」……………文化や芸術を広める仕事や、文化財を守る仕事などをする、国の機関。

— 木村さんは、【資料1】を読み、次の【木村さんの経験】を思い出しました。木村さんが経験を通して気づいたこととして最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【木村さんの経験】

ひいおばあちゃんが「かわやはどこ。」と聞いたことがあったなあ。ぼくが「かわやって何。」とたずねたら、お父さんは「便所のことだよ。」と教えてくれたなあ。ぼくはトイレって言うんだけだな。



木村さん

- 1 時代とともに言葉の意味が変わること。
- 2 時代とともにものの使い方が変わること。
- 3 世代によってものの呼び方がちがうこと。
- 4 世代によって言葉の使い方は変わらないこと。

二 木村さんは、【資料1】を読み、言葉は年月とともにどのような変化をするのか調べたいと思いました。そこで、次の【資料2】と【資料3】を読み、分かったことをあとの【木村さんのメモ】に整理しています。これらをよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【資料2】

「あたらしう」は新しい形

「ふんいき」ということばを「ふんいき」と言う人が多くなりました。こう言うと、「たいへんだ、日本語がこわれてしまふ!」と思う人がいるかもしれません。でも、心配しないでください。にたようなことは、昔からよくあることです。「できたばかり、まだ古くない」という意味で、私たちは「新しい」と言います。でも、大昔の奈良時代には、「あらたし」と言っていました。今でも、「新しく」という意味で「あらたに」と言うでしょう。「あらた」は、大昔から使われていました。ところが、次の平安時代には「あらたし」が「あたらし」になりました。「た」と「ら」の順番が入れかわっていますね。つまり、「あらたし」に比べれば、「あたらし」は新しい形です。それが変化して、今では「あたらしい」になりました。

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

【資料3】

とてもできる、とてもできない

今、あなたは「勉強がとてもできる」という言い方を変だとは思わないでしょう。「とても」は「非常に」の意味を表します。ところが、100年ほど前の大正時代、作家の芥川龍之介は、「とても安い」「とても寒い」という言い方は新しいと書いています。それより前の時代には、「とてもかなわない」「とてもまともでない」のように、「とてもくはない」の形で言ったというのです。つまり、大正時代よりも前は、「勉強がとてもできる」とは言わず、「ぼくには、そんなことはとてもできない」と言っていたんですね。この場合の「とても」は、「どうしても」「どうてい」という意味を表します。

こんな話を聞くと、「じゃあ、これからは『とてもできない』と言おう、『とてもできる』とは言わないようにしよう」と思うかもしれません。でも、その必要はありません。

もっと古い時代、室町時代には、「とても」は「どうせ」の意味で使っていました。たとえば、「とても散るべき花」と言えば、「どうせ散る花」という意味です。

ことばを昔の意味だけで使おうと思ったら、現代では暮らせなくなってしまう。「昔はどうだったか」を知ることが大事ですが、「現代ではどう使われているか」を理解することも大事です。現代の人は、ことばを現代の意味で使うのが一番いいのです。

(飯間浩明『日本語をつかまえろ!』による。)

【木村さんのメモ】

言葉の変化について分かったこと

「あたらしい」は新しい形

(奈良時代) (平安時代) (今)
あたらし ↓ ア ↓ あたらしい

時代とともに言葉の形が変わる。

とてもできる?できない?

(室町時代) (大正時代より前) (今)
どうせ ↓ どうしても、どうてい ↓ 非常に

イ

(1) 【木村さんのメモ】の **ア** の中に入る

適切な言葉を【資料2】の中から書きぬき
ましょう。

(2) 【木村さんのメモ】の **イ** に当てはまる

内容として最も適切なものを、【資料3】を読み、
次の1から4までの中から一つ選んで、その
番号を書きましょう。

1 時代とともに言葉の意味が変わる。

2 時代とともにものの使い方が変わる。

3 世代によってもものの呼び方がちがう。

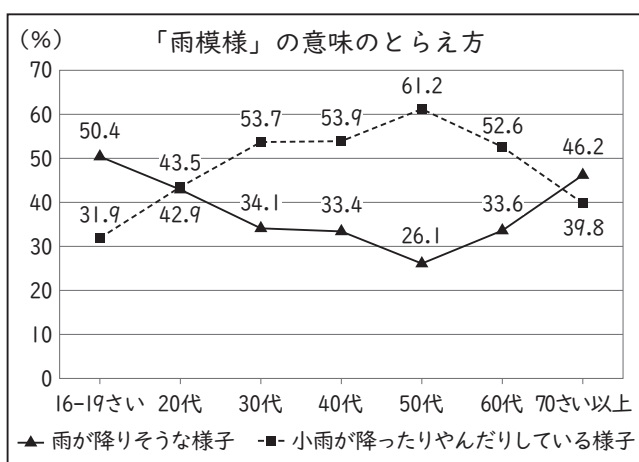
4 世代によって言葉の使い方は変わらない。

三 木村さんは、言葉の変化について田中さんと話し合いながら、【資料1】を読み返しています。次の【話し合いの様子】をよく読んで、あとの(1)と(2)の問いに答えましょう。

【話し合いの様子】

ぼくが読んだ二つの資料（【資料2】、【資料3】）には、言葉が変化していることが書かれていたよ。【資料1】に「言葉の正誤を軽々しく決めることはできない」と書かれていることにつながるよ。

【資料4】



(文化庁『令和4年度国語に関する世論調査』による。)

私は、この資料（【資料4】）を見つけたよ。これを見ると、世代によって、「雨模様」の意味のとりえ方にちがいがあることが分かるでしょ。

本当だ。三十代から六十代は本来の意味とはちがう「小雨が降ったりやんだりしている様子」ととらえている人の割合が高いね。

こんなふうに、人によって言葉の意味のとりえ方がちがうと、伝え合うときに困ると思うよ。だから、【資料1】に「A」と書かれているとおりだと思うよ。

言葉の変化については、いろいろな考え方があるんだね。もう一度【資料1】を読み返して、言葉の変化について自分が一番なっとくしたことをまとめよう。



木村さん



田中さん



木村さん



田中さん



木村さん

(1) 【話し合いの様子】の

A

 に当てはまる内容として最も適切なものを、次の1から4

までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

1 【資料1】の — 部 ①

2 【資料1】の — 部 ②

3 【資料1】の — 部 ③

4 【資料1】の — 部 ④

- (2) 木村さんは、【資料1】を読み返して言葉の変化について自分が一番なっとくしたことを、【資料2】、【資料3】、【資料4】に書かれていることを理由にしてまとめることにしました。あなたが木村さんなら、どのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

〈条件〉

- 言葉の変化についてなっとくしたことを【資料1】から言葉や文を取り上げて書くこと。
- なっとくした理由を【資料2】、【資料3】、【資料4】の中から選び、言葉や文を取り上げて書くこと。

※次の枠は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。

--	--	--	--

これで、国語の調査問題は終わりです。
最後に質問があります。解答時間
終了よう後、先生の指示で回答しましょう。

【質問】 ※解答時間終了後、先生の指示で回答しましょう。

それぞれの質問について、当てはまるものやあなたの考えに最も近いものを1つ選んで、解答用紙の ☐ の中の回答らんに、その番号（数字）を書きましょう。

(1) 今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか。

- 1 全ての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した
- 2 書く問題で解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあった
- 3 書く問題は全く解答しなかった

(2) 解答時間は十分でしたか。(45分)

- 1 時間が余った
- 2 ちょうどよかった
- 3 やや足りなかった
- 4 全く足りなかった